

年次報告書

令和3年(2021年)度

4年間の学びを、力に変える大学。



(目次)

巻頭言	1
1. 沿革	2
2. 歴代管理職	3
3. 組織(令和3年度)	3
4. 地域連携センターの位置づけ	4
5. 令和3年度実績	6
5-1 生涯学習講座	6
5-2 ボランティア活動・地域連携活動	9
5-3 学外での発表	12
5-4 年次事業計画の達成度	13
6. 次年度の展望	14

(別表) 事業報告一覧

巻頭言

「地域連携センター」の発足からまる5年が経過しました。この2年間は、社会全体が新型コロナウイルスの感染拡大の波にさらされ、多くの地域との取り組みが中止を余儀なくされましたが、大学の地域連携・社会貢献の総合窓口として、なし得る取り組みを続け、「地域の伴走者」としての最前線に立つ努力を積み重ねてきたと考えています。

昨年度の主要業務を振り返ると、産学官連携及び地域・社会貢献に関する取り組みでは、本学を含む「ちば産学官連携プラットフォーム」の活動の充実が挙げられます。生涯学習分野の「ちば学リレー講座」をはじめ、「共同FD・SD研修」や学生主体の活動にも関与し、実績を重ねることができました。文部科学省私立大学等改革総合支援事業のタイプ3（地域社会への貢献：プラットフォーム型）に4年連続で選定されるに至ったことは、客観的にも私たちの日々の地域連携活動と近隣大学との連携が着実に進んでいることも表れだと考えます。また千葉市の呼びかけに呼応し「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」への参画も始まりました。

生涯学習講座については、緊急事態宣言の再発出により8月～9月に講座の休講を余儀なくされました。JR稲毛駅前にサテライト・キャンパスとして生涯学習センターを開設して以来の大変厳しい状況にありますが、感染症には最大限の対策を講じながら、市民の学びの意欲に応えるべく、努力を重ねてきました。生涯学習センターのありかたについては、今後も充実を期した検討を重ねていくこととしています。

ボランティア活動については、東京2020大会（オリンピック、パラリンピック）や「パラスポーツフェスタちば」をはじめとする多くの取り組みで学生のいきいきとした活動が見られましたが、10年間続けてきた宮城県への訪問活動は、感染症の影響で直前になって中止をすることとなりました。

地域連携活動はその多くが再開できてはおりませんが、これまでのご縁を絶やすことのないよう、種まきに努めております。

令和3年度は大学基準協会による認証評価を受審し、適合の判定をいただきましたが、地域連携センターが主に関与する基準9「社会連携・社会貢献」では、高い評価をいただくことができました。この結果に甘んじることなく、「地域の伴走者」としての取り組みを重ねていきたいと考えております。

今後も「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」を意識した取り組みが続きますが、引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和4年5月

敬愛大学地域連携センター
センター長 藤森 孝幸

1. 沿革

(生涯学習講座)

平成18年	9月	生涯学習講座開講、年度末までにのべ751名が受講。
平成21年	4月	事務分掌再編に伴い、所管部署名が大学運営室に変更される。
平成28年	4月	講座、受講者情報の管理および受講料収納の円滑化のため、運営基幹システム「Smart Academy」および受講料のコンビニエンスストアでの支払決済システムを導入。
平成28年	4月	「敬愛大学生涯学習センター」をJR稲毛駅前に開設
平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を大学運営室から移管。
平成30年	4月	生涯学習センターを移転し、教室を拡張

(ボランティア活動、地域連携事業)

平成21年	4月	事務分掌再編に伴い、教務学生課学生係が学生支援室に改組。
平成23年	3月	東日本大震災が発生、有志学生によるボランティア活動が活発化。
平成23年頃から		学生支援室において学生の正課外活動の活性化のため、ボランティア活動や地域の町内自治会・商店街、稲毛区役所などとの関係を深め始める。
平成23年	9月	教員主導による「宮城ボランティア」が開始。
平成27年	3月	キャリアセンターの主導で、千葉市の間で「地域経済活性化に関する連携協定」を締結
平成27年	5月	学生支援室内に、ボランティアセンターが設置される。
平成28年	4月	「宮城ボランティア」の主管が、ボランティアセンターに移管。
平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を学生支援室から移管。

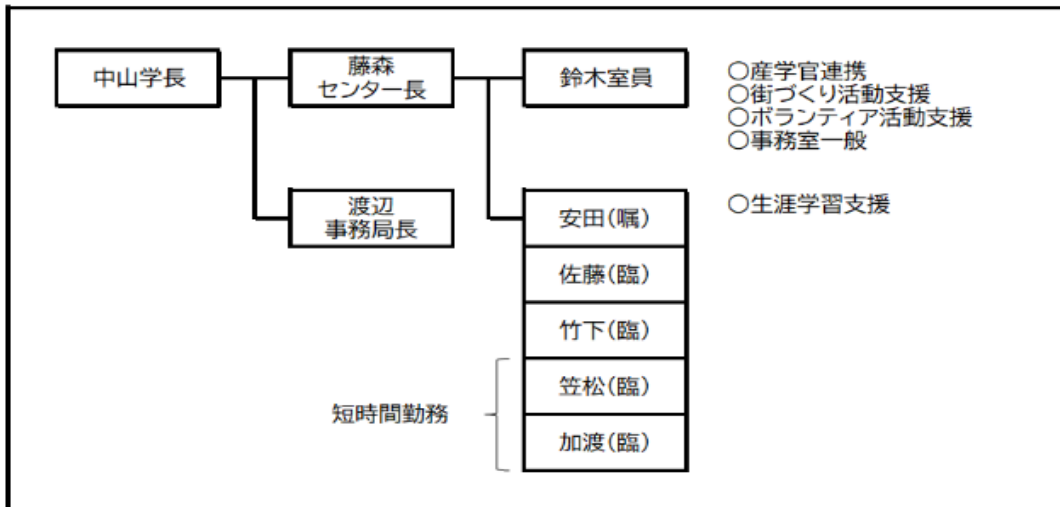
(地域連携センター事業)

平成29年	4月	地域連携センターの新設に伴い、大学運営室、学生支援室およびIR企画室(現:IR・広報室)から関連事業を移管。 なお地域連携センターは、IR・広報室と同様、学長直属の部署として設置された。
平成30年	8月	「ちば産学官連携プラットフォーム」設立に伴い、副会長校を拝命。 同プラットフォームでは、生涯学習部会幹事校を拝命。
平成31年	2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ5) 選定
令和2年	3月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ3) 選定
令和3年	3月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ3) 選定
	12月	「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」に参画
令和4年	3月	大学基準協会の認証評価で、「適合」の評価をいただく。 文部科学省私立大学等総合改革支援事業(タイプ3) 選定

2. 歴代管理職

平成29年4月1日	地域連携センターの新設に伴い、 センター長に、小阪新造（前・法人運営室員）が就任。 事務室長に、藤森孝幸（前・学生支援室主幹）が就任。
平成31年4月1日	センター長に、中山幸夫（副学長、経済学部教授）が就任。
令和3年4月1日	センター長に、藤森孝幸（事務室長兼務）が就任。

3. 組織（令和3年度）



センター長	藤森孝幸（地域連携センター事務室長を兼務）
室員	鈴木紀子
室員（嘱託職員）	安田勝也
室員（臨時職員）	佐藤真理子、竹下典子、加渡正一、笠松宏

なお生涯学習支援関係のため、生涯学習委員会（委員は各学部若干名）を設置している。
令和3年度は、経済学部1名（根本敏則教授）、国際学部1名（織井啓介教授）、教育学部1名（向山行雄教授）が各々の学部において選出されている。

内容は月々の教授会での報告にとどめたが、3月2～22日に持ち回りで委員会を開催し、今年度の総括と次年度の計画を報告、承認された。

4. 地域連携センターの位置づけ

①地域連携センター規程(平成29年4月1日施行)

◆第2条(目的)

センターは、敬愛大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業との連携を深め、地域の発展に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。

◆第3条(業務)

センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) 産学官連携及び地域・社会貢献に関する事項
- (2) 生涯学習・公開講座に関する事項
- (3) 地域行事・ボランティア活動等の情報統括に関する事項
- (4) 地域連携に関わる大学内の連絡調整および窓口業務に関する事項

②令和3年度部門別事業計画

敬愛大学ビジョン2030に基づく「中期計画'24」および2021年度事業計画

中期計画'24		2021年度 事業計画
目標	計画	
VI. 地域連携・社会貢献		
1. 学生と地域との連携、大学間連携、産学官連携を推進し、地域連携センターが学園の地域連携活動の総合窓口としての役割を果たす。	1-1 ボランティア活動に加え、サービスラーニングの充実に注力し、学生が地域に学ぶ正課外活動の実践を目指す。	東京2020大会を含むボランティア活動の充実に加え、先進的な取組を行っている大学との情報を得ながらサービスラーニングの充実に関する検討を行う。また「宮城ボランティア」を継続する。
	1-2 「ちば産学官連携プラットフォーム」のスキームを活用し、参画大学・短期大学間はもとより、千葉市、市内産業界とも連携した取組を推進、他大学を含む産学官連携の充実を図る。	ちば産学官連携プラットフォーム事業で担当する「生涯学習」「地域支援」の2部会での活動の充実を図り、結果として改革総合支援事業の採択に積極的に寄与する。
	1-3 短大の稲毛キャンパス移転を機に、大学だけではなく学園全体の地域連携活動の窓口としての役割を認識し、幅広い社会貢献活動を展開する。	キャンパス統合を見据えた「大短一体」の取組のための調査を行う。また短大および高校2校に対して、協働可能なプログラム(地域連携学習、ボランティア学習)の提供を検討する。
2. 生涯学習講座やリカレント教育の充実により、生涯学習センターを生涯学習・リカレント教育の地域拠点として確立する。	2-1 「老後の学び」から「生涯にわたって学び続ける生き方」にシフトした教育コンテンツを提供するため、リカレント教育や履修証明プログラム等のメニュー開発を検討する。	コロナ禍で失われた市民の学びの火を起こしなおすため、講座の内容を精査しなおし、生涯学習センター事業の収益確保に努める。また、ちば産学官連携プラットフォーム参加校と協働して、他大学の講師を迎え入れるなど本学生涯学習センターの活性化に努める。 また、新規にリカレント教育の一環として、地域に密着した専門的・実践的な教育プログラムを提供する「敬愛大学経営人材育成アカデミー(仮称)」を開設する。

③令和2年度組織目標

設置5年目となる地域連携センターは、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に改めて明記された「地域の伴走者」として高まるニーズを的確に捉え、与えられた環境の下、最善の組織実現をめざす。具体的には、

1. 東京2020大会を含むボランティア活動の充実に加え、「ポスト・オリパラ」「ウィズ・コロナ」を意識した、学生が地域に学ぶ取り組みを動の充実に努める。
2. ちば産学官連携プラットフォーム事業で担当する「生涯学習」事業の充実に注力すると同時に、学内各室との連携を深め、改革総合支援事業の4年連続採択に積極的に寄与する。
3. 引き続き、大学だけではなく短大の社会貢献事業を把握し、キャンパス統合を見据えた「大短一体」の取組のための下地づくりに努める。
4. コロナ禍で冷え切った生涯学習センター事業の収益向上と同時に、生涯学習事業の実情を精査し、本学としての今後のありかたを明示する。
5. 所管業務に遺漏無きよう業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら、具体的な自己啓発に努める。

(補足) 1~4は、「中期計画'24(2020-2024)」の当年度事業計画と同じである。

5-1. 令和3年度実績(生涯学習講座)

① コロナ禍における対応

令和元年末から徐々に拡大した新型コロナウイルス(covit-19)感染症の拡大は、これまでの年間500講座、延受講者数2500名の目標を大きく揺るがした。2回目の緊急事態宣言が令和3年3月に解除されたものの、4月20日には蔓延防止等重点措置が発出され、8月2日～9月30日には3回目の緊急事態宣言が発出された。秋にはしばらく沈静化したと思いきや、令和4年1月～3月(2ヶ月間)にわたり再び蔓延防止等重点措置が発出となり、ほぼ一年間を通じて、感染症の状況に悩まされることとなった。本学独自のガイドライン(公益社団法人日本学習塾協会による「学習塾事業者における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等を参考に整備)に沿って、緊急事態宣言中の8月～9月には、全ての講座を休講とした。

一方千葉市が打ち出した「千葉市習いごと応援キャンペーン」(受講料の半額を千葉市が助成する制度)では、11月～3月に新規にのべ107名の受講生を獲得することができたが、キャンペーン開始が11月1日から延びたことで、対象とする講座を22講座に減じることとなった。

生涯学習センターでは、独自のガイドラインに照らして、室員・講師や受講生の安全衛生に十分配慮した運営を行い、来訪者全員への検温や手指消毒の徹底、空気清浄機や空調設備を利用した換気などに努めた。結果として、室員・受講生には感染者は発生しなかった。また昨年度に続き、千葉市による「コロナ追跡サービス」への参加、「新型コロナウイルス感染症対策取組宣言の店」の認証などを通じて、安全・安心な環境で生涯学習事業に取り組めるように配慮した。



② 講座数、受講者数 (受託運営講座を除く)

(単位：講座)

(単位：人)

講座数		2019年度	2020年度	2021年度
前期	提供	265	264	113
	開講	202	82	42
	開講率	76.2%	31.1%	37.2%
後期	提供	217	103	121
	開講	164	76	89
	開講率	75.6%	73.8%	73.6%
年間	提供	482	367	234
	開講	366	158	131
	開講率	37.2%	37.2%	37.2%

受講生数		2019年度	2020年度	2021年度
前期	申込数	1,322	1,072	700
	受講者数	1,249	335	572
後期	申込数	1,163	833	880
	受講者数	1,053	766	694
年間	申込数	2,485	1,905	1,580
	受講者数	2,302	1,101	1,266
対2019年度比			47.8%	55.0%

令和3年度は、前年度に緊急事態宣言が2回発出されたことをうけ、年度内の講座数のコロナ禍前の半数程度しか用意せず、かつ2教室ある生涯学習センターでも小教室(定員8名)での講座を実施せず、大教室(定員20名)も募集定員を10名までに抑えた。これに伴い受講料収入の大幅減収は避けられないこととなったが、三幣理事長および中山学長と相談しながら、「やむなし」という方針で運営にあたった。

受講生は同一日時講座、同一講師へのリピート率が高いことから、同一講師で他の日時にも講座を増やしたクラス、また新規に確保した講師のクラスは、講座の魅力を浸透させるのに時間がかかる傾向が強い。また長引コロナ禍を受けて、新たに学び始めたいという意欲のある方がおられる反面、学習意欲を閉ざしてしまう方も一定数いることは課題である。

このような傾向を考慮しながら、ワクチン接種も進んでいることから、次年度は定員を抑えつつも2年ぶりに「2教室 体制」に戻し、前期だけで175講座での募集を行うこととした。これにより新たに19名の講師（大半は本学専任・非常勤講師、連携する他大学所属教員）を迎えた。

③ 受講料収入

(単位:千円)

生涯学習事業収支	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (見込)
収入	30,325	27,138	5,109	10,206
支出	39,093	33,652	16,906	17,278
収支	△ 4,352	△ 6,514	△ 11,797	△ 7,072

事業拡大で年間2700万円に達していた収入は、コロナ禍で大きく落ち込んでいるが、令和3年度は1000万円台にようやく回復させることができた。前述の通り、長引くコロナ禍で、永年受講したださった方々の履修離れが進んでいることは否めないが、新規に受講を申し出てくださる方々も増えつつある。とはいえ、高額な支出超過に陥っていることは事実であり、次年度の課題とする。

④ 生涯学習センター(駅前センター)の周知定着

平成30年4月に生涯学習センターをこみなと稲毛ビルの6階から3階に移転したことを契機に様々な広報戦略を展開してきたが、現在は生涯学習センターウェブサイトを中心に、「ちば市政だより」(千葉市広報:市内全戸にポスティング配布されている)の3月号と9月号への掲載により、市民への緩やかな浸透を目指す取り組みを継続している。

なおミニコミ紙(船橋よみうり等)などの紙面で、講座を紹介していただく機会が増えている。また一般社団法人千葉市産業振興財団では、会員福利厚生サービスとしても当センターの講座受講に助成金を出すなど、活用を後押ししていただいている。更に令和3年度は、千葉市生涯現役センターによる「シニアのための生涯学習フェスタ」でのプレゼンテーションをする機会をいただき、新規受講者の掘り起こしにも成功した。

さらに千葉市生涯学習センター(指定管理者:一般社団法人千葉市教育振興財団)から、「利用者懇談会委員」「市民自主企画選考委員」への就任依頼を受け、より深く相互の情報共有などを推進している。



⑤ ちば産学官連携プラットフォーム「ちば学リレー講座」

平成30年8月に発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」には、令和2年9月に千葉敬愛短期大学が新たに加盟し、千葉市域の私立大学・短期大学11校が参画している。本学はこのプラットフォームで生涯学習連携事業部会の幹事校に任じられていることから、同プラットフォーム事業のひとつである「ちば学リレー講座」を本学生涯学習センターで開講、会場の無償提供および申込受付を請け負った。

令和3年度は年間11講座が提供され、うち9講座を当生涯学習センターで開催した。8・9月の講座がオンデマンド講座となったが、全講座にのべ150名が受講した。無料講座でもあり生涯学習センターの収入にはならないものの、結果として敬愛大学が生涯学習事業に熱心に取り組んでいることを市民の皆様にご存知いただく機会となった。

ちば学リレー講座2021
千葉(市)に関する研究や話題を、さまざまな側面から紐解く講座です。

2021年度 前期日程 年間11回開催、各回とも土曜日13:30~15:00(90分間)です。

5/29 ちばの「政治とコロナ禍の課題」 講師：大石 茂樹 氏 講師：小川 洋平 氏	6/26 ちばの「身体表現」 講師：村前 麻天 氏 講師：高橋 真由美 氏
7/31 ちばの「食産業」 講師：高橋 公幸 氏 講師：山本 浩二 氏	8/28 ちばの「環境」 講師：内山 隆 氏 講師：山本 浩二 氏
9/25 ちばの「スポーツビジネス」 講師：小野 尚 氏 講師：安丸 大 氏	(2021年度 後期講座予定) 10月 9日 10月 30日 11月 27日 12月 25日 1月 29日 2月 26日

定員：各回先着12名まで
申込期間：各回の前日まで
申込方法：Googleフォームから、お申し込みください。
お問い合わせ先：敬愛大学生涯学習センター
電話：043-251-8384 問合せ用メール：res@kai.ac.jp

⑥ 運営スタッフの勤務態勢

新型コロナウイルス感染拡大を受け、理事長の指示で在宅勤務や休業補償の制度がスタートした。臨時職員4名には長期間にわたり契約通りの勤務を提供することができず、休業補償(契約時給の6割)を行ったものの負担をかけてしまった。

なお当初はスタッフの若返りを促すために臨時職員1~2名の契約見直しを検討し、1月~2月に公募・選考を行った。その結果、4月1日付で竹下典子室員の後任として田内治美室員を、加渡正一室員の後任として蓬菜美奈子室員を採用することとした。

5-2. 令和3年度実績(ボランティア活動、地域連携活動)

① 概要

本学の学生はボランティア活動への関心が高く、当センターが主催・幹旋する活動のみならず、大学内外の諸団体における自主的な活動に、多くの学生が参加している。またボランティア活動だけでなく、地域の社会貢献活動にも熱心に参加する姿が見受けられ、それらの経験を日々の正課活動、正課外活動にも活かしているのは、高く評価したい。

しかしコロナ禍の影響を受け、主催事業や千葉市域の大学によるコンソーシアム組織「ちば産学官連携プラットフォーム」での事業、地域との協働事業がのきなみ中止を余儀なくされ、学生が「地域に学ぶ」取り組みは、かなり停滞したと言ってよい。しかし一年延期となった東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、複数大学が協力してすすめてきた「車いすフェンシング競技ボランティア養成研修」に参加した学生の多くが、世界第一線の選手のサポートをする機会に恵まれたことが特筆すべきである。

また県事業「千葉県夢チャレンジ体験スクール『キャリア教育しごと体験スクール』」「パラスポーツフェスタちば2021」、いいね稲毛実行委員会事業「稲毛駅前月イチ清掃ボランティア」は規模を縮小しながらも継続され、多くの経験と学びの機会を提供することができた。

②主な事例

◆パラスポーツの機運醸成と普及協力

千葉市が東京オリンピック・パラリンピックの競技開催都市となったのを機に、千葉市が推進する「パラスポーツの普及」に、敬愛大学も全面的に協力している。コロナ禍の影響で、千葉市と連携して行う「パラスポーツ交流会」や「パラスポーツ講座」は開催できなかったが、稲毛区と



区内3大学が共催する

「第3回いなげボッチャカップ」や「パラスポーツフェスタちば2021」（千葉県・千葉市共催）には、多くの学生が実行委員、ボランティア、選手として参加してくれたことは、特筆すべき事項である。



◆東京2020大会でのボランティア活動

2年前から継続してきた、東京パラリンピックの公式種目である「車いすフェンシング」の競技ボランティア養成への取り組みは、本学から最終的に33名が登録を行った。東京2020大会の1年延期により辞退した学生もいたが、組織委員会及び競技団体（NF）の呼びかけに応じ、特例として競技ボランティアの追加登録が認められ、21名が8月23日～29日の公式練習期間及び競技期間に、会場の幕張メッセで活動に参加。25日からの競技期間では、選手・審判の誘導や選手のピストへの固定（選手一人につきボランティアが3名必要）、選手の剣や用具が入ったバッグの運搬のほか、試合後のピストなどの消毒など様々な活動に他大学の学生たちと共に献身的に取り組んでくれた。学生たちを含む多くのボランティアスタッフに対し、国際競技団体や大会役員などからの賛辞も寄せられ、5日間の競技は成功裡に幕を閉じた。

なお大会終了後に行ったアンケートによれば、本学学生の中には、他にも選手村のセキュリティゲートや食堂担当、通訳担当など様々な形で関与してくれたことがわかった。

◆その他の他大学との連携事業

(1)ちば産学官連携プラットフォーム事業



▶千葉市こども若者市役所

千葉市こども支援課の呼びかけで始まった事業で、高校生と大学生が集まり、千葉市からの課題解決に取り組んできた。本学からも学生有志が参加している。

▶生浜ライトカフェ

高校生への福祉的支援を目標とした活動で、食事を提供しながら、高校生とのコミュニケーションや交流機会を持つことで、高校生の第三の居場所を創るとともに、必要であれば、専門的な支援につなげていくことを目指す活動。本学からも学生及び職員が参加している。

▶ちば仕事研究塾

オンラインによる地元企業3社による業界研究会を開催した。本学学生もキャリアセンターを通じた周知に応じて参加している。

▶合同模擬授業・進路ガイダンス

プラットフォーム参画校の幅広い学問分野を活かして、高校生向けの模擬授業と個別相談会を開催。本学からは教員2名(国際分野、教育分野)と職員が参加している。

▶大賀ハス開花70周年記念学生ワークショップ

複数大学の学生が集まり、市の大賀ハス開花70周年事業に関われないか、2月から検討が始まった。令和4年夏までに何かしらの形を作り上げる方向性で動き始めている。本学学生も参加している。

▶フードバンクちばと連携した学生への食糧支援

プラットフォームによる学生アンケートの結果、独居学生や留学生を中心に、コロナ禍での生活に苦勞する学生もいることから、千葉市やフードバンクちばの協力を得て、学生への食糧支援を行った。

本学では第1回は野球部寮生に、2回目からは一般学生への配布を行った。

(2)ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム

かねてから千葉市と千葉大学、民間企業が協力して取り組んできた起業家教育メニューの一つ「西千葉子ども起業塾」を基礎として立ち上げた、新しい産学官連携の枠組み。令和3年12月に設立総会が開催された。

設立時参加団体は、イオン環境財団、JFEスチール、303BOOKS、グローバル・スカイ・エディケーション、ZOZO、巧匠開発、千葉銀行、ビジネス・ブレイクスルー、敬愛大学、千葉大学、千葉経済大学、千葉市である。

今後、経営学科の学生を中心に、全学的に学生の活動参加を呼びかけていく。

◆稲毛区、稲毛区内町内自治会活動への参加

- ・稲毛区民まつり 中止
- ・区内大型イベントの参加 稲毛せんげん通りまつり、稲毛あかり祭「夜灯」とも、中止

・町内自治会、商店街、コミュニティセンター事業への参加

穴川町会、稲毛東5丁目自治会、穴川商栄会（学友会事業）、シャルム西千葉自治会（学友会事業）等 中止

◆震災学習スタディツアー2021

これまで宮城ボランティアと呼んでいた宮城県でのフィールドワークは、今年度から「震災学習スタディツアー」と名称を変更し、「10年の学びを『自分ごと』に」をテーマに、2月9日～11日の2泊3日で企画し、本学学生21名が参加を予定していた。実際に3回の事前学習を行っただけでなく、尚絅学院大学（宮城県名取市）にも訪問して調整を進めたが、オミクロン株の流行が顕著となったため、1月27日に催行中止を決定した。

結果としては中止となったが、事前学習で自主的な訪問地に関する解説・発表を求めたところ、大変興味深い発表がなされた。これをうけ、教務部と協議し、次年度からは震災学習スタディツアーの学びを「敬愛プログラム」の形でまとめられないかを検討することとなった。



◆千葉県夢チャレンジ体験スクール「キャリア教育しごと体験スクール」

コロナ禍による協力企業減、また学校の夏休みが短縮されたことから事業規模が縮小されたが、本学学生チューター7名（うち3名は2019年度経験者）が中高生18名の指導に熱心にあたってくれた。特に夏季休業中に4日間連続（企業等での仕事体験2日間および前後1日ずつの研修）での学生スタッフの活動はめざましいものがあり、県教委や参加中高生からの評価は、極めて高いものであった。事業への協力は次年度も継続していくが、今後も宿泊を伴わない4日間のプログラムとなる見込みである。



◆第4回英語教師授業力ブラッシュアップセミナー

前年度にコロナ禍のため中止した本セミナーは、令和3年11月28日に同じ講師をお招きして開催した。テーマは「児童生徒の可能性を切り拓く英語指導のあり方～「いま」そして「これから」教師に求められること」とした。

講師には、塚本裕之先生（静岡県総合教育センター教育主幹・指導主事）、川村光一先生（栄東中学・高等学校教諭、「橋架村塾」塾長）、佐藤裕子先生（船橋市教育委員会指導課）および英語教育開発センターの先生方をお招きした。



◆県内高等学校との連携事業

令和元年度に協定締結した市立稲毛高校とは、今年度も「総合的探求学習の時間」の指導助言やグローバル企業見学会などに年間を通じて協力した。1年生の「総合的探求学習の時間」には経済学部の八木准教授、佐竹准教授、米田准教授および藤森センター長を派遣した（2年生の「総合的探求学習の時間」は、コロナ禍による日程変更により派遣できなかった）。



またグローバル企業見学会では、昨年度に引き続き成田国際空港株式会社（NAA）の見学会を実施した。今年度は、NAAの手配で、ランプコントロールタワーや航空消防隊、旅客施設、JAL成田オペレーションセンターの見学が実現し、参加生徒から高い関心と引率者からの高評価をいただくことができた。

◆文科省私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）

2018年8月に発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」では、本学は「生涯学習」「ボランティア」「大賀ハス開花70周年記念事業」「高校生の福祉的支援」に関する事業に関わっている。本学としての主な取り組みは以下の通り。

① ちば学リレー講座

全11回（うち2回オンライン開催）で、本学からは高岡英氣准教授が「ちばのスポーツビジネス」をテーマに講師をお務めいただいた。

② 社会人の学び直し支援プログラム（ICTスキル講座）

本学からは大塚慎太郎准教授が「AI・データサイエンスへのいざない」をテーマに講師をお務めいただいた。令和4年4月から、公開予定である。

③ 参画校教職員への講師派遣

藤森センター長を稲毛区ボランティアセンター主催の「高校生・専門学校生・大学生のための災害ボランティア講座」の講師に派遣した（生涯学習部会）。

④ 文部科学省私立大学等総合改革支援事業（タイプ3：プラットフォーム型）には、植草学園大学・短大、神田外語大学、敬愛大学、淑徳大学、千葉敬愛短大、千葉経済大学・短大、千葉明德短大、帝京平成大学の10校が共同で申請に取り組み、3月に選定された。本学がタイプ3選定により獲得した補助金額は、特別補助のみで900万円であった。

5-3. 令和3年度実績（学外での発表）

本学の地域連携の取り組みは学外からも注目されており、以下の新聞・学会等で発表の機会をいただいた。

① 教育学術新聞（令和3年11月24日号、日本私立大学協会発行）

「敬愛大学の地域連携活動」

② 令和3年度第2回千葉県体育学会オンラインシンポジウム(令和3年12月4日)

「東京2020大会を支えたボランティア活動を振り返り、千葉のボランティア推進を考える」

パネリスト: 仁平貴子(千葉県県民生活・文化課)、馬場宏輝(帝京平成大学)、
遠藤隆志(植草学園大学)、吉原未紗(植草学園大学3年)、
峯岸勇氣(千葉市オリンピック・パラリンピック調整課)、藤森孝幸

5-4. 令和3年度実績(年次事業計画の達成度)

「中期計画'24」に基づく2021年度事業計画およびその達成状況を、年度末にとりまとめた。全般的には新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、大学間連携の取り組みではA評価を達成できた。

2021年度事業計画			中期計画'24 進捗状況
事業計画	達成状況	達成度	
東京2020大会を含むボランティア活動の充実に加え、先進的な取組を行っている大学との情報を得ながらサービスラーニングの充実に関する検討を行う。また「宮城ボランティア」を継続する。	コロナ禍のピーク中にあっても最大限の感染対策を講じながら大会の成功に大いに寄与することができた。またちば産学官連携プラットフォームの共同FD/SDを通じて、サービスラーニングについての理解を深めることができた。 「宮城ボランティア」は名称を「震災学習スタディツアー」と改め2月実施を予定し、事前研修を重ねたが、コロナ禍で催行を中止した。	B	B
ちば産学官連携プラットフォーム事業で担当する「生涯学習」「地域支援」の2部会での活動の充実を図り、結果として改革総合支援事業の採択に積極的に寄与する。	部会再編がなされたが、引き続き「生涯学習」「地域支援」に関する分野を通じて様々な地域課題解決に資する活動を展開し、改革総合支援事業(タイプ3)に4年連続で採択された。また千葉市等との連携による「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」への参画等にも積極的に取り組んだ。	A	A
キャンパス統合を見据えた「大短一体」の取組のための調査を行う。また短大および高校2校に対して、協働可能なプログラム(地域連携学習、ボランティア学習)の提供を検討する。	現時点では短大が佐倉キャンパスにあるため十分ではないが、大学と短大が協力しながら、学生募集、生涯学習、ボランティア等の事業でちば産学官連携プラットフォーム等の事業に取り組んだ。 学園高校には、総合的探究活動への講師紹介等により、地域連携学習に協力することができた。	B	C
コロナ禍で失われた市民の学びの火を起こしなおすため、講座の内容を精査しなおし、生涯学習センター事業の収益確保に努める。また、ちば産学官連携プラットフォーム参加校と協働して、他大学の講師を迎え入れるなど本学生涯学習センターの活性化に努める。 また、新規にリカレント教育の一環として、地域に密着した専門的・実践的な教育プログラムを提供する「敬愛大学経営人材育成アカデミー(仮称)」を開設する。	コロナ禍での緊急事態宣言等が断続的だったため、生涯学習センター事業はまだコロナ前の4割程度しか稼働できていない。他大学の講師を受け入れることもできていないが、新規講師の開拓は進んでいる。 なお「経営人材育成アカデミー」は大学運営室主導で立ち上がり、1コース9名の受講者を得ることができた。	B	B

6. 次年度の展望

令和4年度組織目標および職責表を、以下の通り定めた。

①組織目標

<p>令和4年度は、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に示されている「地域の伴走者」としての学内外からの期待を的確に捉え、与えられた環境の下、最善の取り組みをめざす。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合地域研究所と協力して、「千葉」という地域の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携の循環を進める。 2. ちば産学官連携プラットフォーム事業で主に担当する「生涯学習」等の分野で引き続き事業を牽引し、文部科学省改革総合支援事業の継続的な採択に努める。また「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」等の新規産学官連携事業、東京2020大会のレガシー醸成にも積極的に取り組む。 3. 2年後の短大稲毛復帰を見据え、「大短一体」をより意識した事業を推進すると同時に、系列高校や教育連携高校の社会貢献・地域連携事業の実践にも、積極的に協力する。 4. 感染症蔓延防止に最大限配慮しながら、生涯学習センター講座の再拡大に努める。特に資格取得講座の充実、経営人材育成アカデミーの充実を図り、生涯学習センターの発展に注力する。 5. 所管業務に遺漏なく業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら自己啓発に努める。

②職責表

学長	管理職	室員	担当業務
中山学長	<p>藤森 センター長 (室長兼務)</p> <p>○労務管理 ○予算管理 ○大学事務局長 及び各室との 業務調整 ○生涯学習センター 防火管理者</p>	<p>鈴木紀(専)</p> <p>オルガ(嘱) ※4/18付配置 →他部署と連携</p> <p>安田(嘱)</p> <p>佐藤(臨)</p> <p>田内(臨)</p> <p>笠松(臨・短)</p> <p>蓮葉(臨・短)</p>	<p>○産学官連携関係 主務者:藤森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県、千葉市、稲毛区との連携事業 ・高校等、地元企業等および教職員との連携事業 ・ちば産学官連携プラットフォーム事業(生涯学習連携事業部会幹事校) ・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム事業 ・文部科学省私立大学等総合改革支援事業の申請 ・震災学習、大学間連携災害ボランティアネットワークに関する事業 <p>○街づくり活動支援関係 主務者:藤森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「稲毛の街をもりあげ隊」事業(町内自治会、避難所運営委員会、大型イベント等) ・パラスポーツの普及事業、東京2020大会のレガシー醸成事業 <p>○ボランティア活動支援 主務者:鈴木紀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動支援、紹介・幹旋、指導助言 ・ボランティア関係団体(社会福祉協議会、ボランティア団体等)との連絡調整 ・「夢チャレンジ体験スクール」実務 <p>○事務室一般関係 主務者:鈴木紀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算実績管理、備品管理、経理処理等 ・ちば産学官連携プラットフォーム事務局担当 ・短大「離職者等支援事業」キャリア支援担当 <p>○生涯学習支援関係 主務者:安田、副務者:鈴木紀</p> <p>生涯学習事業の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の企画、受講生の募集 ・受講生データ管理(システムによる管理) ・講座の運営(学外講座における引率等も含む) ・駅前センターの管理、清掃、防火点検 ※防火管理者(藤森)の指示による ・貸主(こみなと興産)との連絡調整

なお自己点検・評価委員会で取りまとめる年報（アニュアル・レポート）では、「課題9：社会連携・社会貢献」に、次の点が地域連携センターの「次年度への課題」として挙げられている。

「ちば産学官連携プラットフォーム」、「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」を活用した地域連携・社会貢献、生涯学習、産学官連携を推進すると共に、区役所と連携して地元町内自治会の課題解決にも取り組む。

また「中期計画'24」に基づく令和3年度の事業内容は、以下の通りである。

中期計画'24		2022年度事業計画
目標	計画	
1. 学生と地域との連携、大学間連携、産学官連携を推進し、地域連携センターが学園の地域連携活動の総合窓口としての役割を果たす。	1-1 ボランティア活動に加え、サービスラーニングの充実に注力し、学生が地域に学ぶ正課外活動の実践を目指す。	地域連携センター、総合地域研究所が中心となり、「千葉」という地域の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域経済との相互連携の循環を進める。
	1-2 「ちば産学官連携プラットフォーム」のスキームを活用し、参画大学・短期大学間はもとより、千葉市、市内産業界とも連携した取組を推進、他大学を含む産学官連携の充実を図る。	ちば産学官連携プラットフォーム事業で主に担当する「生涯学習」「地域支援」の分野で引き続き事業を牽引し、改革総合支援事業（タイプ3）の継続的な採択に努める。また「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」等の新規産学官連携事業にも積極的に取り組む。
	1-3 短大の稲毛キャンパス移転を機に、大学だけでなく学園全体の地域連携活動の窓口としての役割を認識し、幅広い社会貢献活動を展開する。	より「大短一体」を意識した事業展開を推進し、大学だけでなく短大の社会貢献・地域連携事業の実践にも協力する。また引き続き、学園高校のボランティア活動、総合的探究活動にも協力する。
2. 生涯学習講座やリカレント教育の充実により、生涯学習センターを生涯学習・リカレント教育の地域拠点として確立する。	2-1 「老後の学び」から「生涯にわたって学び続ける生き方」にシフトした教育コンテンツを提供するため、リカレント教育や履修証明プログラム等のメニュー開発を検討する。	感染症拡大防止に最大限配慮しながら、生涯学習センター講座の再拡大に努める。特に資格取得講座の充実、経営人材育成アカデミーの充実を図り、生涯学習センターの再活性化に注力する。

令和4年度はこれらの課題や事業計画を克服するため、まず令和3年度までの事業を本年報で総括し、特に生涯学習センターのありかたについて他部署、他大学、関係機関と連携して、より深みのある地域との連携、社会への貢献の充実を図り、「地域の伴走者」としての確たる実績を積み重ねていきたい。

なお新型コロナウイルス感染症の状況によっては、今後の各種事業のあり方の軌道修正を余儀なくされることも考えられるため、冷静に推移を見守りながら、柔軟な対応ができるように努めたい。

以上

特に現2年生に配慮を

敬愛大学の 地域連携活動 活動再開に奔走

千葉市稲毛区に立地する敬愛大学（中山幸夫学長、経済学部、国際学部、教育学部）は、地域活動に力を入れている大学だ。しかし、コロナ禍で様々な地域活動の取り組みを中止せざるを得なかった。新型コロナウイルスの感染拡大は地域活動にどのような影響があったのか。地域連携センター長の藤森幸幸氏に聞いた。

藤森センター長に聞く

〇2017年度に地域連携センターを開設
同大学の地域連携活動は、これまで大学運営室（総務課）や、学生支援室（学生課）を中心に各部で展開していた。前者は主に生涯学習や自治体の取り組みの窓口として、後者は主に学生ボランティア活動の情報提供としてである。2017年度に両機能を統合して地域連携センターを設け、当時学生支援室に在籍していた藤森氏が担当となった。

「本学の地域活動は全て正課外のボランティアとなり。まず、地域から学生募集の依頼があり、都度センターから学生にメールなどで情報提供し、活動毎に学生

が手を挙げる（この指とまれ方式）ですが、当然、依頼元とは事前にセンターで面談させて頂き、その活動が「学生性」「災害支援」「地域活性化」であることをしっかりと確認します。こうして年間30以上の活動を行っていましたが、大きく「教育支援」「地域活性化」「災害支援」に分けられ、活動も多くなりました。また、千葉市域に立地する11大学・短大で構成する「ちば学生官連携プラットフォーム」に参加し、「ちば学生官連携」を推進しています。

「災害支援」では、東日本大震災の復興で、現地にある尚絅学院大学（宮城県名取市）の連携で毎年現地へ学生を派遣し、活動を行ってきた。また、災害時に地元・稲毛のまの二丁に

た。また、災害時に地元・稲毛のまの二丁に「対応ができるよう、地域の避難所運営委員会の訓練に参加している。これまで地域の行事や町内自治会行事の運営に協力する活動が多かった。2020年のコロナ禍では中止や延期が相次ぎ、全国の大学と同様、学生の活動も止まってしまった。学校の現場に行くと、「教育支援も当然ストップ。追い打ちをかけるように、緊急事態宣言の4月から宣言が明けた6月まで、学生が大学に原則入構できない事態となった。

〇3・11に宮城県を訪問
学生たちからは「早く活動をしたいが、自分が感染して周りに迷惑をかけるかもしれない」という不安。また地域からは「活動は中止せざるを得ないが学生には申し訳ない」という声も聞かれた。一方、自治体から主催する事業は、最後まで実施を模索していたという。

2020年5月、千葉県が主催する中高生の仕事体験イベント「キャリア教育」に体験スクーリングは、事業規模を縮小しつつ8月に開催することの知らせが入った。学生たちには当日まで計画通り実施できるかは分からなないと伝えていたが、情報を受け取った多くの学生が手を挙げた。結果、4日間でのべ20人が参加し、熱心に中高生の指導にあたった。

また2021年8月の東京パラリンピックで、帝京平成大学（市原市）が旗振の役となり、幕張メッセで行われる「車いすフライング」の競技ボランティア養成を国公立7大学の連携で実施。敬愛大学も21

人が参加し、「知らなかった世界が見えた」という感想が心に残ったと藤森氏は振り返る。当然、学生たちもオンラインでの活動に試行錯誤を繰り返していた。例えば、小学生への教育支援を行うサークルでは、実験キットを自宅に送り、オンラインで一緒に実験を行うというプログラムを行ったという。

〇特に現2年生に配慮
「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして



藤森幸幸地域連携センター長

り替える地域イベントも少しずつ増えてきた。そうした中で、2021年3月に、東日本大震災から10年になる宮城県を訪問する企画が実現する。3月10日から12日に、学生20人が参加しました。震災から満10年となる「3・11」に折り返し、感染防止に最大限の注意を払いつつ現地の方々に話を伺いました。例年同様

「知らなかった世界が見えた」という感想が心に残ったと藤森氏は振り返る。当然、学生たちもオンラインでの活動に試行錯誤を繰り返していた。例えば、小学生への教育支援を行うサークルでは、実験キットを自宅に送り、オンラインで一緒に実験を行うというプログラムを行ったという。

「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして

「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして

「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして

「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして

「3・4年生たちが積極的に1・2年生に参加の機会を提供する光景も見られました。『来年は任せたい』と言って託していくのです。これまで地域行事で若い学生に期待される役割は、多くは単純労働だった側面もある。しかし、このコロナ禍で、例えばデジタル技術は学生が担う、という役割分担もあつた。先述の教育支援の例もあるように、学生自身がコロナ禍で可能な動きを探る方向にマインドセットができてきたことも大きい。建学の精神は「敬愛愛人」。『社会や地域への関心をより長くして

地域連携センター 事業報告（令和3年度）

【主催事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
主催事業	第4回英語教師授業力 ブラッシュアップセミナー	11/28	千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県私立中学高等学校協会	87名 (うち本学学生 36名)
	震災学習スタディツアー2021	2/9~11	尚網学院大学、関東中央自治会、MEET石巻、コミュニティ福島、相馬市観光協会ほか	コロナ禍中止 (学生21名参加予定)
	東京パラリンピック競技大会 競技ボランティア (車いすフェンシング競技)	8/23~29	東京2020大会組織委員会、国際パラリンピック委員会	活動学生 21名 (登録学生33名)
協働事業	千葉県夢チャレンジ体験スクール「キャリア教育しごと体験スクール」	8/17~20	千葉県教育庁生涯学習課	活動学生 7名
	敬愛大学バラスポーツ交流会(ポッチャ)	10月	千葉市、稲毛区地域振興課、ポッチャクラブ3385	コロナ禍中止 (大学祭ついで開催)
	バラスポーツフェスタちば2021	11/23	千葉県、千葉市	活動学生 19名 (うち学生実行委員2名)
	千葉市こども若者市役所(ちば産学官連携プラットフォーム協働事業)	通年	千葉市こども支援課、ちば産学官連携プラットフォーム	本学学生のべ5名
	生浜ライトカフェ	10/25、11/17、12/8、3/24	千葉市こども支援課、千葉県立生浜高等学校、ちば産学官連携プラットフォーム	本学学生のべ5名
	第3回いなげポッチャカップ	2/19	稲毛区地域振興課、ポッチャクラブ3388、千葉大学、千葉経済大学・短大	活動学生 5名 (選手3名、運営2名)
	小学生を対象とした模擬選挙(模擬市長選挙の立候補者役等)	11/1、12/7	千葉市選挙管理委員会、千葉市立金沢小学校、千葉市立千城台東小学校	活動学生 9名 (候補者役6名、運営3名)
	大賀ハス開花70周年記念学生ワークショップ(第1回)(ちば産学官連携プラットフォーム協働事業)	2/26	千葉市緑政課、千葉商工会議所、ちば産学官連携プラットフォーム	活動学生 2名
大学生等のボランティア・社会貢献活動推進セミナー「Life is volunteer ~"わからない"の壁を壊せ! 2022」	2/13	千葉市社会福祉協議会	活動学生 2名 (学生実行委員として)	
教育連携事業	総合的探求の時間(1年) Inage Image 講師派遣協力	通年	敬愛学園高等学校、千葉市広報広聴課ほか	-
	総合的探求の時間(1年) 指導助言、審査講評	9/16、11/16、11/30	千葉市教育委員会教育改革推進課、千葉市立稲毛高等学校	教職員のべ15名
	グローバル企業見学会(コーディネート)	12/23	千葉市立稲毛高等学校、成田国際空港株式会社ほか	25名 (高校生21名含む)
大学連携事業	ちば産学官連携プラットフォーム	-	淑徳大学、千葉経済大学、千葉敬愛短大ほか計11大学・短期大学	-

【活動への紹介・助言を行った事業、学生を派遣した事業】

カテゴリー	事業名	時期	派遣先	のべ派遣人数
②地域活性化ボランティア	千葉市障害者スポーツ大会 大会運営補助	5月中旬	千葉県障がい者スポーツ協会	コロナ禍中止
	稲毛せんげん通りまつり	7/14・15	稲毛せんげん通りまつり実行委員会	コロナ禍中止
	稲毛東5丁目 納涼盆踊り大会	7月下旬	稲毛東5丁目自治会	コロナ禍中止
	稲毛駅前月イチ清掃ボランティア	4/24、6/26、7/24、9/25、10/23、11/24	いいね稲毛実行委員会	のべ18名 (うち学生12名)
	第15回稲毛あかり祭「夜灯」	11月下旬	稲毛あかり祭夜灯実行委員会	コロナ禍中止
	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会 避難所開設・運営訓練	8/29	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会	学生参加中止
③災害復興支援ボランティア	大学間連携災害ボランティアシンポジウム	1/29	大学間連携災害ボランティアネットワークほか	オンライン開催
	災害ボランティア活動	通年	千葉県内ほか近隣被災地	実績なし

【学生が自主的に活動している事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
①教育支援ボランティア	教育ボランティアサークル Iris	7回開催 (うち対面4回)	千葉市美浜区役所、高浜ショッピングセンターほか	活動学生 のべ40名
	教育ボランティアサークル 放課後こども教室	通年	千葉市生涯学習振興課、轟町小学校放課後こども教室	-
②地域活性化ボランティア	ボランティアサークル Love and Action	通年	NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)	-
	穴川町会 盆踊り	7月下旬	穴川町会	コロナ禍中止
	シャルムのタベ	8月下旬	シャルム西千葉自治会	コロナ禍中止
	穴川商栄会 秋祭り	10月上旬	穴川商栄会	コロナ禍中止
④大学横断型ボランティア	ボランティアサークル ちばくりん敬愛支部(ちーあいふれあいの庭)	通年	千葉市緑政課、千葉大学環境ISO委員会	-

敬愛大学地域連携センター

年次報告書 令和3年(2021年)度

令和4年 6月 10日 発行

編集・発行 敬愛大学地域連携センター


〒263-8588 千葉県稲毛区穴川1-5-21

TEL 043-251-6364 (直通)

FAX 043-284-2261 (直通)

URL http://www.u-keiai.ac.jp/research/renkei_center/

MAIL crc@u-keiai.ac.jp

 **UD FONT** 本冊子には、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。